

事業戦略

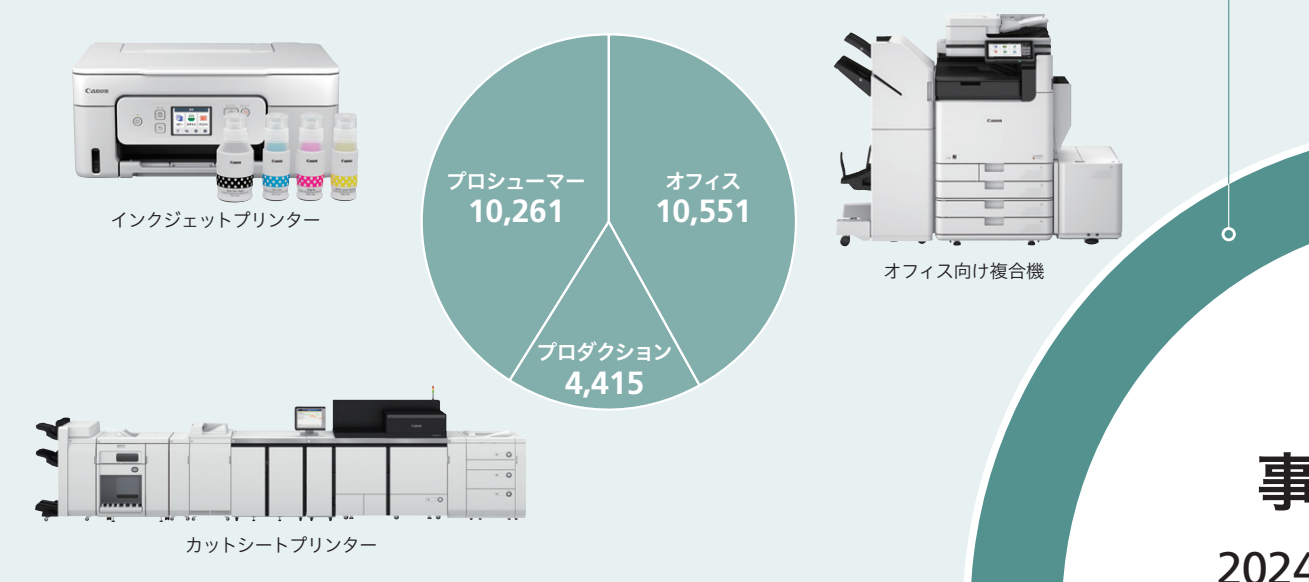
「生産性向上と新事業創出によるポートフォリオの転換を促進する」という基本方針のもと、キヤノンが保有する多岐にわたる事業や技術を最大限に生かすために2021年に4つの産業別グループに再編成しました。各グループの視点でそれぞれの技術力や事業領域を再度見直して組織を再強化し、M&Aなども積極的に行って開発や生産の強化を図り、新しい事業を生みだしていきます。

プリンティング

ホーム印刷から商業産業印刷まで

売上高 **2兆5,227** 億円 / 構成比 **56%**

従業員数 **111,733** 人



その他および全社

売上高 **2,337** 億円 / 構成比 **5%**

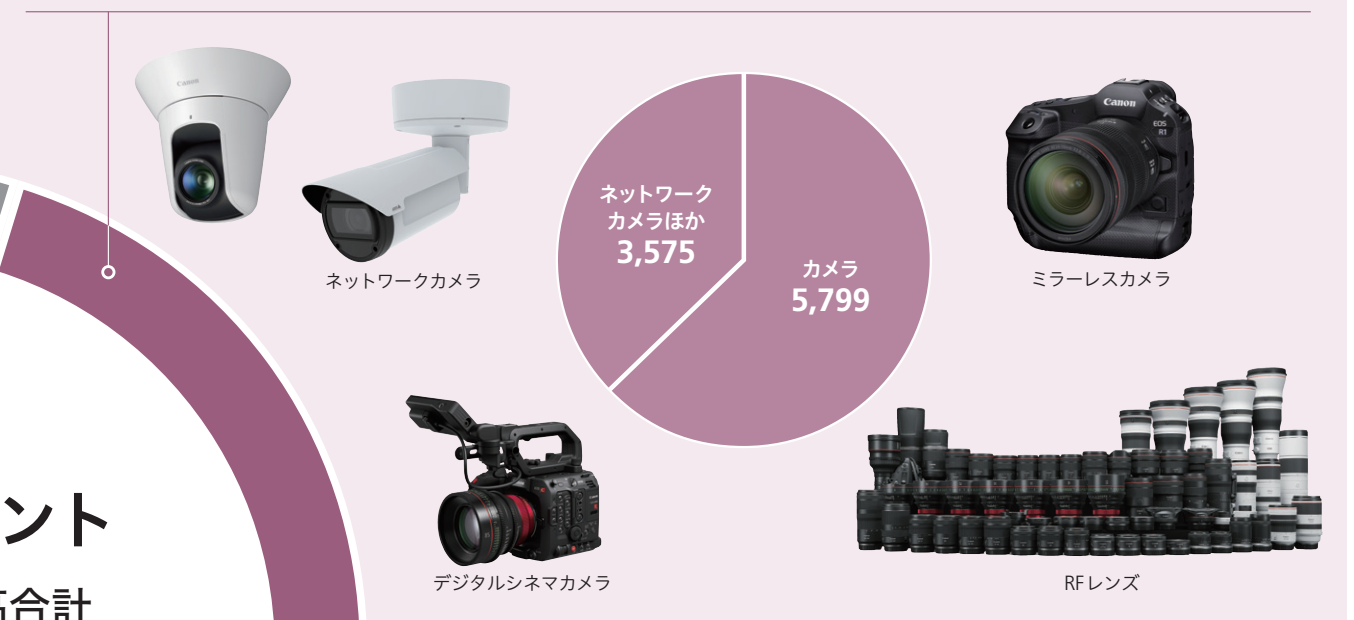
従業員数 **11,966** 人

イメージング

人々の暮らしからプロの現場まで

売上高 **9,374** 億円 / 構成比 **21%**

従業員数 **25,612** 人

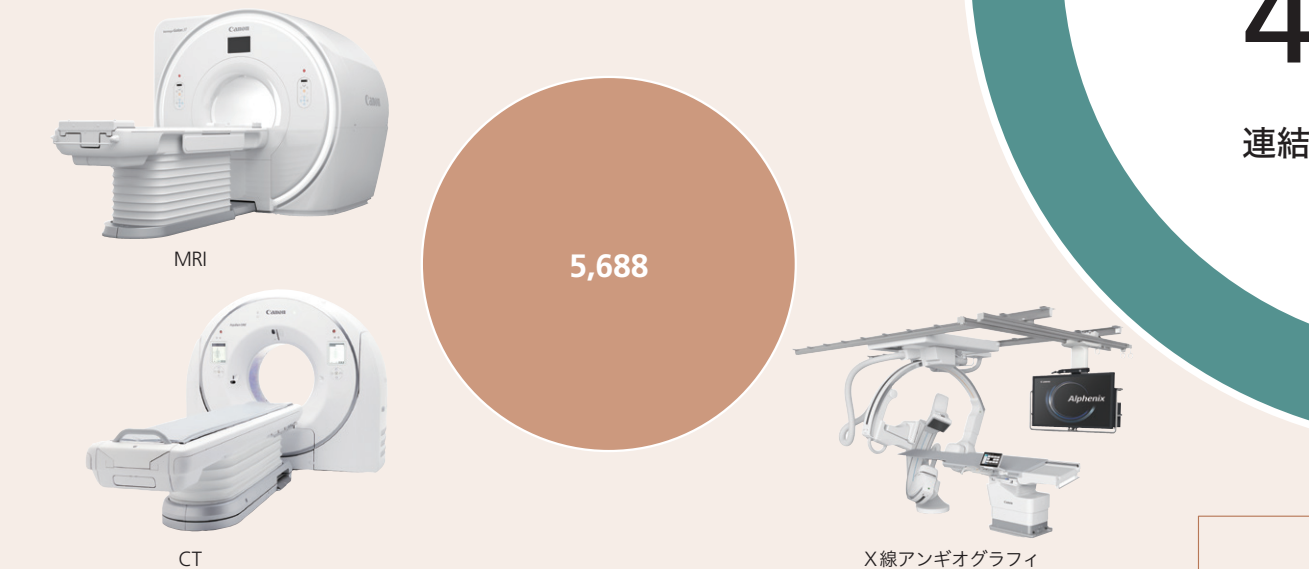


事業セグメント

2024年連結 売上高合計

4兆5,098 億円

連結従業員数 170,340人



メディカル

医療従事者との共創

売上高 **5,688** 億円 / 構成比 **13%**

従業員数 **13,289** 人

インダストリアル

先端エレクトロニクス産業への貢献

産業機器 1,031

光学機器 2,534



売上高 **3,565** 億円 / 構成比 **8%**

従業員数 **7,740** 人

* 各ビジネスユニットの売上高には、ユニット間取引にかかる売上が含まれているため、総計100%になっていません

事業戦略 プリンティング



経済の発展や文化の継承、科学の進歩、いずれも紙のプリントなしに語ることはできません。キャノンは、プリントを通じ、「考える」「協働する」「生活を楽しむ」といった人々の活動を支えることで、人類の新たな価値創造や価値の保管・伝達に貢献してきました。また、ペーパーレス化が進むなかでも、紙のプリントが迅速性や利便性の点でデジタルデータやディスプレイの機能を上回る場面があります。キャノンは今後もこうしたニーズに応える製品やサービスを提供していきます。

プリンティング事業では、ホーム、オフィス、商業・産業印刷まで幅広い用途に対応したプリンターを提供しています。さらに、今後はクラウドベースの社会において、高性能なハードウェアと先進ソフトウェアが連携したサイバーフィジカルシステムを提供し、いつでもどこでも「意のまま」に、安全・安心・簡単・快適にプリントできる社会を実現していきます。

関連するSDGs

9
産業・貿易の振興

9.1 サイバーフィジカルシステムによるプリンティングデジタルサービスの提供や、オフィスのDXに貢献するなど、お客さまの業務の効率化・高度化・省力化に貢献しています

13
気候変動に具体的な対策を

13.2 複合機「imageRUNNER ADVANCE DX C3900F」シリーズは、従来より定着温度を大幅に低く抑えた低温定着トナーを採用することで、従来機種に比べ消費電力を最大約15%低減、業界トップクラスの標準消費電力量(TEC値)を実現し、CO₂排出量を削減しています

12
つくる責任
つかう責任

12.5 1992年以来、使用済み複合機のリマニュファクチャリングを推進しており、部品リユース率を高めた環境特化型モデル「imageRUNNER ADVANCE C3530F III-RG」は90%を超える部品リユース率を達成しています

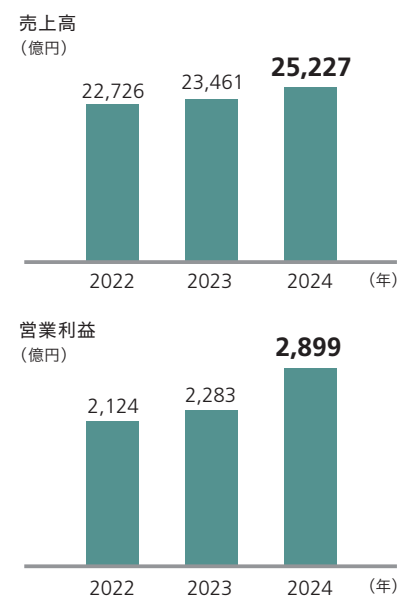
2024年の業績

商業印刷の成長と、レーザープリンターの回復により増収

商業・産業印刷向けプリンターは、多品種少量印刷やアナログからデジタルへのシフトが進んでおり、キャノンは顧客の声をもとに製品の改良を重ねてきました。2024年5月にドイツで開催された印刷業界最大の展示会、drupaでは、新製品を含めた幅広い製品ラインアップが好評を博し、受注の拡大につながりました。

オフィス向け複合機は、生産性の高い中核のプリンティング機器としてニーズは底堅く、省エネ性能やメンテナンス性が顧客から評価され、カラー機の稼働台数は増えており、安定したサービス収入につながっています。

インクジェットプリンターは、欧州、中国の市況悪化の影響を受けましたが、新製品を投入した大容量インクモデルは、新興国を中心に販売を伸ばし、レーザープリンターは出荷調整完了後の第2四半期以降は順調に回復し、売上を伸ばしました。



事業環境

競争優位性	事業機会	リスク
- デジタルプリントの「電子写真技術」と「インクジェット技術」の両方を保有 - コンシューマーやオフィス向け製品、商業印刷などの製品群をもち、販売・サービスサポートを全世界で展開 - 部品点数が多い高性能プリンターも量産できる生産力を有し、生産装置まで内製化するなど有機的な連携が可能	- IT技術の進展にともなう新たな印刷・ドキュメントソリューションの需要 - 働き方の多様化、働く場所の分散化による新たなプリントサービス需要 - 商業印刷、産業印刷におけるデジタル印刷市場の拡大	- ペーパーレス化によるプリントボリュームの減少加速 - 新しい時代にあったデジタルサービス展開の遅れ - サプライチェーンの分断による生産への影響

今後の戦略

プリンティンググループは、家庭向けからオフィス向け、商業印刷機まで幅広いラインアップを有しており、この強みを生かして多様化するプリントニーズに応え、マーケットシェアを高めることで、ペーパーレス化が進むなかでも売上を伸ばしていく計画です。

市場が拡大を続けるデジタル商業・産業印刷では、キャノンでは初となるB2サイズ用の紙に対応した「varioPRESS iv7」や、中小規模の印刷業者の需要に応えたコンパクトな印刷機「varioPRINT iX1700」など、これまでカバーしていなかった領域に新製品を投入することで成長を図ります。

製品ラインアップの拡充に加え、オフセット印刷機のリーディングカンパニーであるハイデルベルグ社との業務提携を開始しており、販売チャネルを広げ、売上拡大を加速させていきます。

オフィス向け複合機については、顧客から高く評価されている製品力を、新ブランドである「imageFORCE」でさらに高め、マーケットシェアの拡大をめざします。レーザープリンター、インクジェットプリンターにおいては、高いプリントボリュームを期待できる地域や顧客層に向けて競争力のある製品の販売に注力し、収益性を確保します。

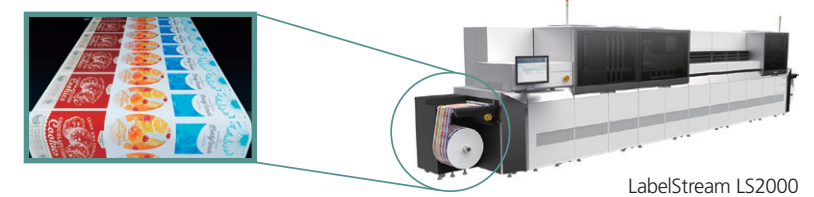
収益性の向上のために、継続して取り組んでいるさまざまな原価低減のための活動に加え、開発・生産・販売の改革を進めており、より高い利益を生みだせる事業体質を実現します。

PICK UP

プロダクション市場向けに製品ラインアップを拡大

成長領域であるデジタル商業印刷については、お客さまの声を取り入れて高めてきた画質や生産性が業界内に浸透し、売上を伸ばしています。さらなる成長のために、今後需要の拡大が見込まれるラベルやパッケージなどの産業印刷の分野へ本格参入し、ビジネス領域を広げていくことを計画しています。食品や日用品のラベルに対応したキャノン初の産業印刷向け水性インクジェットラベル印刷機「LabelStream LS2000」によって、売上を拡大していきます。

商業印刷 (製品ラインアップ)				産業印刷 (用途)		
A3+ 機	B3機	B2機	連帳機	ラベル	紙器	段ボール
imagePRESS	varioPRINT iX3200/1700	varioPRESS iv7	ProStream ColorStream			



事業戦略 メディカル



世界的に進む急速な高齢化や医療費の高騰、また、コロナ禍などの脅威を背景に、医療への需要は引き続き強く、健康増進や疾病予防への対策は世界各国における共通課題となっています。キヤノンは、患者さんや医療従事者と同じ価値観をもち、医療現場のニーズに応える技術を使いやすく、経済的に提供することが、重要な価値創造と考えています。

メディカル事業では、「画像診断」「ヘルスケアIT」「体外診断」の3領域でさまざまな製品やサービスを提供しています。「画像診断」では、CT、MRI、血管撮影装置などの画像の低ノイズ化により病気の早期発見に寄与するとともに、被ばく低減や検査時間短縮で患者さんの負担を軽減しています。「ヘルスケアIT」では、診断画像と患者さんの情報を時系列統合表示するITソリューション、「体外診断」では、検体検査システムに加え、試薬も手がけています。

関連するSDGs

3 持続可能なエネルギー
3.d AIを活用して開発した画像再構成技術を搭載することにより、従来のCTに比べ被ばく量を低減しながら高画質を実現した画像診断装置を製品化しています

17 パートナリシップで目標を達成しよう
17.6 国内外の大学や医療機関とのパートナーシップによる最新のCTやMRI、超音波診断装置の臨床研究をはじめ、AIを活用したプレジジョンケア実現のための最先端研究を行っています

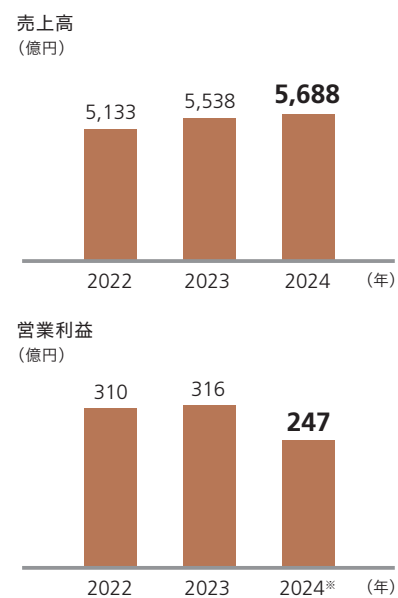
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
9.5 国立がん研究センターとのフォトンカウンティングCTの臨床研究や京都大学iPS細胞研究財団との自家移植用iPS細胞の実用化をめざす共同研究など、イノベーションを推進しています

2024年の業績

米国を中心に売上を拡大、4年連続で増収を実現

画像診断装置は、中国での反腐敗運動の長期化や欧州の景気後退、日本における医療機関の働き方改革の影響を受けて市場が縮小しましたが、CTの新製品「Aquilion ONE / INSIGHT Edition」や主要部品をキヤノン製に一新したMRI「Vantage Galan 3T / Supreme Edition」、血管撮影装置「Alphenix」が米国を中心に売上を伸ばしました。

重点市場である米国では、販売体制の強化とともに、先端医療機関であるクリーブランド・クリニックとの協業など、医療機関やキーオピニオンリーダーとの関係強化を進めてプレゼンスを高めることで、販売が着実に伸びてきています。さらに、アジアや中近東などの新興国では、現地法人を設立し成長につなげました。この結果、メディカル事業は4年連続で増収となりました。



事業環境

競争優位性	事業機会	リスク
• メディカル分野での100年を超える知見と医療従事者とのパートナーシップ • キヤノンがもつ多彩なイメージングおよびものづくり技術 • 世界190以上の国や地域における販売およびサービスの提供	• 新たなマテリアルなどの活用による診断の付加価値向上 • 遺伝子を含むバイオテクノロジー/再生医療技術の進化 • DXツールの進化によるリモートでのプロモーションやデモンストレーションの普及 • 高齢化社会の進行による診断機会の増加やそれともなう医療従事者不足 • 新興国での需要拡大	• 厳格化される法規制や市場ニーズへの対応 • 医療機器の域内生産品優遇政策の広がり • グローバル市場において最大の影響力をもつ米国市場の事業環境の変化 • 紛争地域拡大による取引の停止、停滞

今後の戦略

キヤノンは、事業の中核を担う画像診断装置で確固たる地位を築くことをめざしています。これまで、世界の競合にも引けをとらない製品ラインアップにより売上を伸ばしてきましたが、さらなる拡大のためには、海外における販売力とプレゼンスの強化が喫緊の課題です。世界市場に大きな影響力をもつ医療先進国である米国に重点を置いて、すでに営業リソースの増員など販売体制の強化や、先端医療機関との共同研究、キーオピニオンリーダーである医師との関係強化を推し進めています。また、次世代のCTであるフォトンカウンティングCTについても、キヤノンの装置をもとに多数の論文が発表され注目度が高まっており、早期の発売を実現し、キヤノンのプレゼンス向上に貢献させていきます。

さらに、長期的には再生医療などのバイオ領域にも間口を拡大し、さまざまな治療・診断情報を融合して患者個々人に最適な医療ソリューションを提供するプレジジョンメディシンの発展にも貢献していきます。

PICK UP

フォトンカウンティングCT(PCCT)の早期実用化

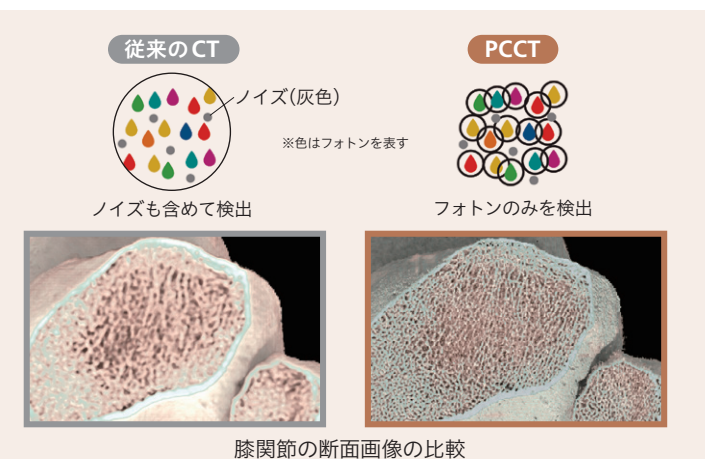
CTは、MRIに比べて検査時間が短く、鮮明な画像を得られるなどの特長がある一方で、X線による被ばくリスクという課題があります。そこで、被ばく量を少なくしながら、より高精細な画像が得られるPCCTの早期開発が望まれています。キヤノンのPCCTは、高精細な画像が得られることのみならず、体内物質の高精度な識別の実現をめざしており、治療方法の迅速な判断につながることが期待されています。

キヤノンは、2023年4月より日本国立がん研究センター、2024年11月より米国ペンシルバニア大学などでPCCTの臨床研究を開始し、医療機器としての効果測定や、安全性を検証しています。臨床研究を進め、新たな診断方法の開発や臨床的な有用性を検証し、PCCTの早期実用化をめざしています。

PCCTの特長

従来のCTは、光の最小単位であるフォトン(X線光子)を一定数ためてから、フォトンの量を計測することで、診断画像をつくり出しています。この方法では、一度フォトン进行ためてからまとめて計測するため、ノイズも一緒に測ってしまいます。

一方、PCCTは、フォトン一つずつ高速かつ正確に数えるため、ノイズも識別でき、結果としてノイズを除去した高精細な画像を得ることが可能となります。





事業戦略 イメージング

社会生活において、あらゆる場面で視覚情報は活用されています。キヤノンは撮影の楽しさ、それを見る喜びや感動を実現する製品・サービスに加え、データとしてとらえた情報をお客さまが必要とする価値に転換するソリューションを提供していきます。

イメージング事業では、高品質・高画質なカメラ本体と多種多様なレンズを提供することで、撮影者の理想の表現を実現し、人々が「幸せを感じる」映像体験を届けます。

一方、世界的なセキュリティ意識の高まりで市場が拡大するネットワークカメラでは、カメラとビデオ管理/解析ソフトウェアを統合した映像ソリューションを提供することで、安心で安全な社会の実現に貢献します。

また、スポーツ・イベント・生産現場のモニタリングや遠隔操作による映像制作などリモートカメラによるさまざまな映像ソリューションを提供することで、お客さまの業務の効率化に寄与していきます。

関連するSDGs

4 質の高い教育をみんなに
4.7 高画質なりモート映像配信システムで円滑なコミュニケーションを支援し、効果的な教育機会の拡大に貢献しています

11 住み続けられるまちづくりを
11.2 スマート社会の発展へ貢献する、さまざまな映像ソリューションを提供しています

12 つくる責任 つかう責任
12.3、13.2 企業活動において果たすべき責任を理解し、開発や設計の工夫による省エネルギー、省資源を着実に実行するとともに、生産性向上に貢献するソリューションを提供しています

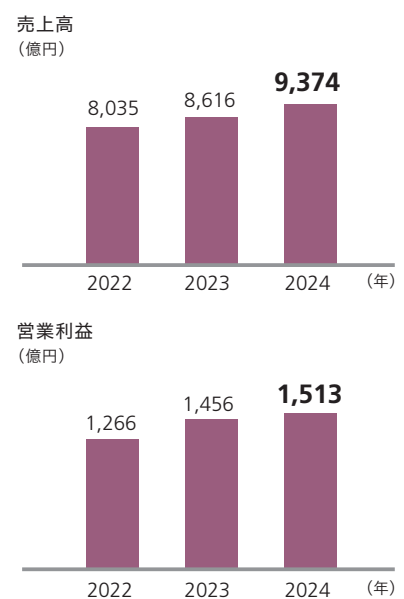
13 気候変動に具体的な対策を

2024年の業績

ミラーレス新製品が販売をけん引、ネットワークカメラも好調

レンズ交換式カメラは、8月にプロ・ハイアマチュア向けの主力モデル「EOS R5 Mark II」、11月にミラーレス初のフラッグシップモデルとなる「EOS R1」を発売し、高付加価値モデルの販売増加とともに、交換レンズも売上を伸ばした結果、カメラ全体で増収となりました。

ネットワークカメラの市場は、セキュリティ分野を中心に成長を続けており、欧米での強力な販売チャネルを生かし、拡大する需要を確実に取り込んだことで、カメラ本体、ソフトウェアともに売上を伸ばし、二桁の増収となりました。



事業環境

競争優位性	事業機会	リスク
- 長年にわたりカメラ産業でプロフェッショナルにも使用され、歴史をつくってきたブランドに対する信頼と認知度 - 高度な光学技術・カメラ技術および映像処理技術により確立したイメージングのリーディングカンパニーとしての価値提供力 - ネットワークカメラ、映像管理/解析ソフトウェアを保有し、グローバル規模で商品やサービスの提供が可能	- 動画撮影ニーズの高まりや若年層によるカメラ需要の高まり - DXにともなう映像活用ソリューションの需要拡大 - 現実と仮想世界の融合や3Dなど、新たな映像表現需要の拡大 - AI技術発展にともなう、カメラ・レンズ機能や性能の飛躍的向上の可能性	- 世界的なインフレや世界情勢の不安定化による市場環境の変化 - 急激に変化、多様化する新たな顧客ニーズへの対応の遅れ - AI技術を悪用した、映像の真正性への疑念の高まり

今後の戦略

デジタルカメラについては、カメラのリーディングカンパニーとして若年層も含めたユーザーに対して魅力ある製品を提供し続け、市場を今後も活性化させていくことが重要です。プロフォトグラファーやカメラを趣味とする方の静止画撮影ニーズだけでなく、近年、SNSの普及や動画配信サービス市場の拡大にともない、Vloggerや個人で映像制作を行うクリエイターなどからの動画撮影ニーズが高まっています。これまで培ってきた高度な光学技術・カメラ技術および映像処理技術によって、幅広いユーザーに価値を提供し続けていくことで、今後も安定した売上を維持していきます。

ネットワークカメラは、災害や犯罪から安全・安心を確保するための監視用途の需要が引き続き拡大しています。欧米を中心とした強力な販売網を活用し、市場の伸びを上回る成長をめざします。

また、店舗でのマーケティングや製造流通における点検・検査の自動化などの需要も高まっており、多様化するニーズに対応した豊富な製品ラインアップによるトータルソリューションを推進していくことで成長を加速させていきます。

PICK UP

新たな3D イメージング市場の創出、活性化へ貢献

3D イメージング関連市場は、ビッグテックの積極的な参入もあり、今後大きく成長していく見込みです。キヤノンは、CGと現実世界を融合させるMR(Mixed Reality=複合現実)システムや、カメラに取り付けて3D撮影を行うVR (Virtual Reality=仮想現実)レンズを販売、そして時間と空間を3Dデータ化するボリュメトリックビデオ技術を実証展開しています。

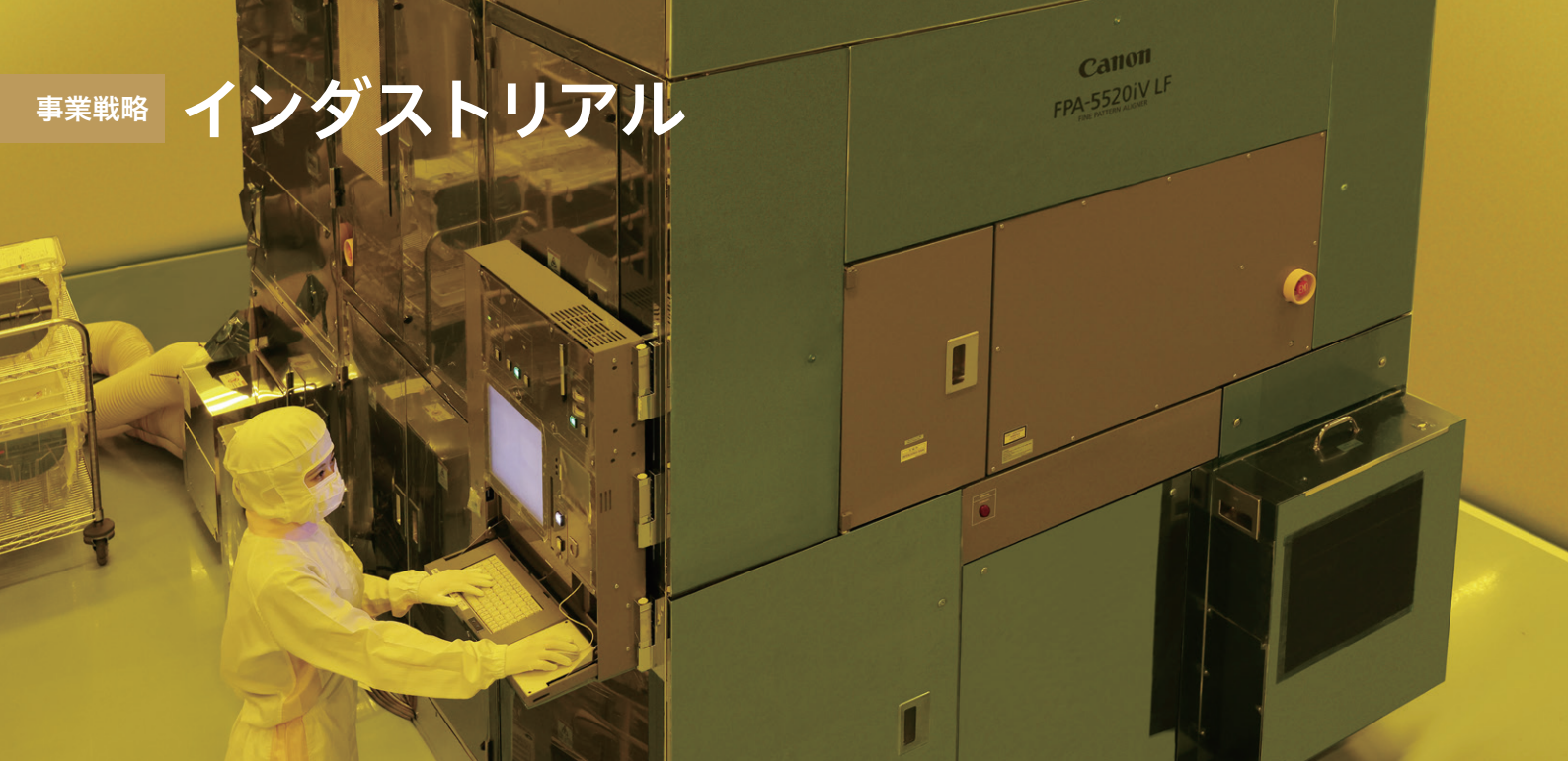
MRシステムの利用用途は、製造業における試作レスを目的とした3Dデータでの事前検証や、医療・教育現場でのトレーニング、小売業でのプレゼンテーション用途など、さまざまなシーンでのソリューションを提供しています。

VRレンズは、1本のレンズに左右2つの光学系を搭載した画期的なレンズです。従来、大がかりな機材や準備が必要とされていた3D映像の撮影を、カメラに専用レンズを取り付けるだけで、誰でも手軽に3D撮影を楽しむことができ、3D VR映像体験の普及に貢献していきます。

広い撮影エリアと多人数のリアルタイム3Dモデルを生成し、再構成が可能なボリュメトリックビデオは、既存のスタジオやスタジオを実証実験の場としても活用するなど、技術基盤を強化してさらなる成長をめざしていきます。



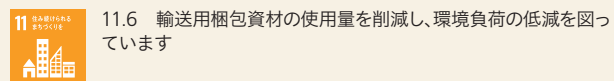
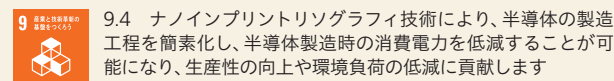
事業戦略 インダストリアル



豊かなサステナブル社会に向け、エレクトロニクス産業の進化がさらに求められています。AIやIoT、5Gなどのデジタル技術革新は、広く世界全体の社会インフラの構築や産業イノベーションを実現する原動力です。キャノンは、先端エレクトロニクス産業向けに独自の光学技術や精密制御技術、AIなどのソフトウェア技術を注ぎ込んだ製造ソリューションを提供することで、社会の発展に貢献していきます。

インダストリアル事業は、半導体デバイスの生産で重要な役割を担う半導体露光装置をはじめ、スマートフォンやテレビの生産に必要な不可欠なフラットパネルディスプレイ(FPD)露光装置、高精細ディスプレイの生産の業界標準となっている有機ELディスプレイ製造装置などを提供しています。半導体やディスプレイの製造工程は大量の電力を使用するため、インダストリアルグループでは、独自のCO₂削減や資源循環(装置の長寿命化)の目標を掲げ、環境に配慮した革新的な製品の提供をめざしています。

関連するSDGs

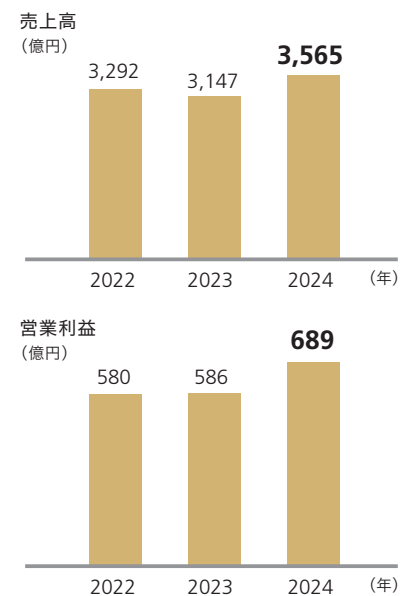


2024年の業績

半導体露光装置の販売台数増により、大幅増収

半導体は、生成AI向けにロジックやDRAMの需要が大きく伸びており、経済安全保障上の観点から自国生産を進める動きも加わり、半導体露光装置の旺盛な需要は継続しています。電気自動車(EV)などで使用されるパワー半導体向け装置に加え、生成AIに使われる先端パッケージ向けの後工程装置は業界標準機となっており、販売台数を大幅に伸ばしました。

FPD露光装置は、パネルメーカーの収益改善が進み、ノートパソコンやタブレットなどに搭載されるITパネル向けの新規投資や、高機能化にともなうスマートフォン向けの追加投資が徐々に回復してきており、前年から微増となる台数を販売しました。その結果、インダストリアル事業は大幅な増収となりました。



事業環境

競争優位性	事業機会	リスク
- 顧客の生産性向上やコストオペレーションの低減に寄与する製品および高度な技術力や経験を有するプロフェッショナル人材 - 低コスト化・微細化を両立させ、生産時の消費電力も大幅に抑制するナノインプリントリソグラフィ技術	- AI、IoT、EV関連製品への需要の高まりによる半導体市場の世界的な拡大 - 世界各国・地域での半導体製造拠点の強化による新たな設備投資	- 半導体/FPD業界のビジネスサイクル - 国際政治の影響による輸出規制など

今後の戦略

半導体は、AI、IoT、EVなどの技術革新に不可欠なデバイスとして今後も市場成長が続くと予測され、半導体製造装置に対する需要も高まっていく見通しです。この旺盛な需要に応えるためには、生産能力の大幅な増強が必要であると判断し、宇都宮で新工場の建設を進めており、2025年の稼働開始をめざしています。

キャノンは、既存のi線(水銀ランプ)とKrF(フッ化クリプトン)露光装置に加え、売上の成長力を高めるためにナノインプリント半導体製造装置の販売拡大をめざしています。さらに、ArF(フッ化アルゴン)露光装置についても、2025年下期からの市場投入をめざして開発を進めており、ラインアップを拡充することで、多様な半導体製造プロセスにおけるさまざまなニーズに応えていきます。

加えて、キャノンとグループ会社のキャノンアネルバ、キャノンマシナリー、キャノントッキがもつコア技術を融合し、新たな事業ドメインの開拓にも取り組んでいきます。

PICK UP

ナノインプリントリソグラフィで10nm台の回路パターンを低コストかつ低消費電力で製造

2023年、キャノンはこれまでの投影露光装置とは異なる方式で回路パターンを形成するナノインプリント半導体製造装置「FPA-1200NZ2C」を上市しました。この装置は、微細な型をウエハー上に塗布された樹脂に押し当てるシンプルな原理で回路パターンを形成します。15nm※以下の微細な回路パターンを低コストで製造でき、既存の先端ロジック向け露光技術と比べ約10分の1まで消費電力を削減できるため、多くのメーカーから問い合わせを受けています。

メモリーやロジックだけでなく、光学素子といった非半導体デバイスなど、さまざまな用途での実用化に向けて、複数の半導体メーカーと共同で評価・検証を進めています。

2024年、「FPA-1200NZ2C」は経済性とサステナビリティの両立が評価され、日本を代表するデザイン賞であるグッドデザイン賞において、特に優れたデザインとして認められる「金賞」を受賞しました。

※ 1nm(ナノメートル)は、10億分の1メートル



キオクシア株式会社に量産性の検証を行うナノインプリント半導体製造装置

ナノインプリントリソグラフィのしくみ

